

行動計画			項目	取組み内容	担当課	具体的施策または方針	目標	評価基準				評価点	評価の理由と改善策		評価の理由と改善策	
								A+	A	B	C		R5	評価点	R4	
								100%以上	100%	50%	0%					
	1	生き物に関するデータの収集	生き物に関するデータの収集	これまで市や他の団体が調査し、蓄積したデータを収集し整理する。	うみがめ課	市民団体や教育・研究機関などと連携し、蓄積したデータの収集、整理を共有できる仕組みづくりをする。	令和2新規	これまで市や他の団体が調査し、蓄積したデータを収集し整理する。	これまで市や他の団体が調査し、蓄積したデータを収集し整理する方法を検討した。	これまで市や他の団体が調査し、蓄積したデータを収集し整理ができていない。	A	昨年同様、市が単独でデータを収集するということではなく、市民団体や研究機関等が蓄積したデータを共有できる状況に至っている。	A	昨年同様、市が単独でデータを収集するということではなく、市民団体や研究機関等が蓄積したデータを共有できる状況に至っている。		
			生き物に関する継続的な調査体制の確立	生き物に関するデータの収集を継続的に行うために、郷育カレッジ認定講座親子野外活動でのパードウォッチングなどの市が取り組んでいる自然体験プログラムを活用した調査の実施、市民団体や教育機関との連携による調査体制の確立に努めます。	うみがめ課 郷育推進課	生き物に関するデータの収集を継続的に行うために、自然体験プログラムを活用した調査の実施や市民団体や教育機関との連携による調査体制の確立に努める。	令和8新規	生き物に関するデータの収集を継続的に行うために、市が取り組んでいる自然体験プログラムを活用した調査の実施、市民団体や教育機関との連携による調査体制の確立に向けて検討した。	生き物に関するデータの収集を継続的に行うために、市が取り組んでいる自然体験プログラムを活用した調査の実施、市民団体や教育機関との連携による調査体制の確立が取り組めていない。	A	関係課や県、市民団体、研機関等から、生き物観察会などで得た生き物に関する情報を収集できる状態である。 また、生物多様性セミナーにおいて市内の団体に講師をお願いしたり、一緒に自然観察会を開催し市民、市民団体が連携して活動できる体制を構築した。	B	理由：関係課や県、市民団体、研究機関等から、生き物観察会などで得た生き物に関する情報を収集できる状態である。 改善策：関係団体と連携し、生き物観察会などの環境学習を活用した調査の体制づくりに取り組む。			
	2	里山環境の保全・再生	森林の保全	水源涵養など森林の持つ公益的機能を維持・確保するため、自然公園法や森林法などの関係法令に基づき、保全します。	農林水産課 うみがめ課	森林のもつ公益的機能の向上を図るために、法令を遵守し、適正に保全に努める。	令和8継続	自然公園法や森林法などの関係法令に基づき、森林の公益的機能を維持・確保するために森林の保全を行った。	自然公園法や森林法などの関係法令に基づき、森林の公益的機能を維持・確保するために森林保全を検討した。	森林の公益的機能再生のための森林管理について検討されていない。	A	法を遵守しているなかで、維持保全ができています。	A	法を遵守しているなかで、維持保全ができています。		
			二次林の再生	二次林の持つ公益的機能を再生するため、針葉樹(スギ、ヒノキなど)から広葉樹(ケヤキ、モミジなど)への転換など適正な管理の方法を検討します。	農林水産課	二次林の再生について、関係課や研究機関等と連携しながら樹種転換などの適正な管理方法について検討していく。	令和8新規	二次林の持つ公益的機能を再生するため、針葉樹(スギ、ヒノキなど)から広葉樹(ケヤキ、モミジなど)への転換など適正な管理の方法を検討し、実施した。	二次林の持つ公益的機能を再生するため、針葉樹(スギ、ヒノキなど)から広葉樹(ケヤキ、モミジなど)への転換など適正な管理の方法について検討した。	二次林の持つ公益的機能を再生するため、針葉樹(スギ、ヒノキなど)から広葉樹(ケヤキ、モミジなど)への転換など適正な管理の方法を検討していない。	B	理由：防災安全課とハザードマップ上の放置竹林への対応の必要性を共有し、今後樹種を変更するなどの可能性を話し合い、考えを深めた。 改善策：ハザードマップ上の放置竹林以外については具体的な整理もできていないことから今後手法も含め検討していく必要がある。	B	二次林の再生には、防災機能の考えも加える必要があり、樹種変更や地域防災計画との兼ね合い、優先エリアなど今後のグリーンインフラの方向性を検討。 次年度において関係課との連携など、考え方を進める。		
			渡半島の山林の保全・活用	竹林化が生じているため、生物の生息地としての山林の質の維持に努めます。	農林水産課	竹林化の状態を把握し、関係者等と保全や活用について協議しながら山林の質の維持に努めていく。	令和8継続	竹林化が生じているため、生物の生息地としての山林の質の維持に努めた。	竹林化が生じているため、生物の生息地としての山林の質の維持の方法を検討した。	竹林化が生じているため、生物の生息地としての山林の質の維持に取り組めていない。	A	現在、大峰山において、水産高校や研究機関、市民団体などが竹林整備に取り組むことで、森林の質の維持に努めている。 農林水産課では、ハザードマップ上の放置竹林への対策の必要性を防災安全課と共有し考えを深めた。	A	現在、大峰山において、水産高校や研究機関、市民団体などが竹林整備に取り組むことで、森林の質の維持に努めている。		
			不法投棄対策の実施	違法な土砂捨てによる環境の悪化を防ぐため、市内の巡回などを強化し、福津市環境創造条例などの関係法令による指導を行います。	うみがめ課	農業振興地域の整備に関する法律の所管課である地域振興課や都市整備部の各課と連携し、協議を今後も引き続き行う。保健所や農林事務所、警察等の関係機関と、不法投棄等の情報共有を図るため、環境対策連絡協議会を引き続き開催する。危険地域については、パトロールなどを行い、不法投棄を未然に防ぐよう努める。		違法な土砂捨てによる環境の悪化を防ぐために、市内の巡回の強化、関係法令に基づいた指導を行った。	違法な土砂捨てによる環境の悪化を防ぐために、市内の巡回の強化、関係法令に基づいた指導について関係者と検討を行った。	違法な土砂捨てに対する、市内の巡回の強化、関係法令に基づいた指導について検討していない。	A	違法な土砂捨てによる環境の悪化を防ぐために、庁内関係課による情報共有を行う場を設け、市内の巡回の強化、関係法令に基づいた指導を行っている。	A	関係団体等と合同でパトロールを実施した。また、通報のあった事業所へは個別で事業所の現地確認等を行い指導を行っている。		
			耕作放棄地の管理・活用	農地全体の保全を図るため、増加している耕作放棄地の管理及び活用方法について検討します。	農林水産課	農地中間管理機構を利用し新規参入者の促進や農地の集積化をはかり、耕作放棄地の減少に取り組む。	令和8継続	農地全体の保全を図るため、増加している耕作放棄地の管理及び活用方法について実施した。	農地全体の保全を図るため、増加している耕作放棄地の管理及び活用方法について検討した。	農地全体の保全を図るため、増加している耕作放棄地の管理及び活用方法について検討していない。	A	農地中間管理機構や農用地利用集積計画に基づき、休耕地減少に向けた対策を行っている。	A	農地中間管理機構や農用地利用集積計画に基づき、休耕地減少に向けた対策を行っている。		
			鳥獣被害防止対策の推進	鳥獣による農作物への被害を少なくするため、宗像市・福津市・岡垣町広域鳥獣被害防止計画に基づき、関係市町と協力し、必要な対策を実施します。	農林水産課	・宗像市・福津市・岡垣町の広域連絡協議会を設置し、箱鼠、ワイヤーメッシュを購入、配布している。 ・3市1町(宗像市・福津市・宮若市・岡垣町)で鳥獣加工処理施設を設置し、イノシシやシカなどの有害鳥獣を処理している。	令和8継続	鳥獣による農作物への被害を少なくするため、宗像市・福津市・岡垣町広域鳥獣被害防止計画に基づき、関係市町と協力し、必要な対策を実施した。	鳥獣による農作物への被害を少なくするため、宗像市・福津市・岡垣町広域鳥獣被害防止計画に基づき、関係市町と協力し、必要な対策を検討した。	鳥獣による農作物への被害を少なくするため、宗像市・福津市・岡垣町広域鳥獣被害防止計画に基づき、関係市町と協力し、必要な対策を取り組めていない。	A	計画に基づき、関係市町と協力し、必要な対策がとれている。また、市では、箱鼠貸与事業を実施している。 また、森林管理署との協定締結によりくくり罠の提供を受けられるようになったことで捕獲が増えた。	A	計画に基づき、関係市町と協力し、必要な対策がとれている。また、市では、箱鼠貸与事業を実施している。 また、森林管理署との協定締結によりくくり罠の提供を受けられるよう調整した。		
			里山環境の保全・再生に関する取り組みの推進	里山環境の保全・再生に関する取り組みを継続的に取り組んでいくために市民、市民団体、事業者、教育・研究機関による協議を進めます。	うみがめ課	里山環境の保全・再生に関する取り組みを継続的に実施していくために、協議ができるプラットフォームづくりを行っていく。	令和2新規	里山環境の保全・再生に関する取り組みを継続的に実施していくために市民、市民団体、事業者、教育・研究機関による協議の仕組みを構築した。	里山環境の保全・再生に関する取り組みの場を設けたが、市民、市民団体、事業者、教育・研究機関の一部としか協議できていない。	里山環境の保全・再生に関する取り組みについて市民、市民団体、事業者、教育・研究機関と協議の場がもたれていない。	B	理由：研究機関や企業、市民団体など、一部と里山環境の保全・再生に向けた協議をそれぞれ行った。 改善策：関係団体と密に連携し、定期的に協議ができるような仕組みづくりに取り組む。	B	理由：研究機関や企業、市民団体など、一部と里山環境の保全・再生に向けた協議をそれぞれ行った。 改善策：関係団体と密に連携し、定期的に協議ができるような仕組みづくりに取り組む。		
	3	河川環境の保全・再生	上西郷川の保全	上西郷川に生息する野生生物及び希少野生生物を積極的に保護するため、適正な維持・管理を行います。	うみがめ課	地域や市民団体、小学校と連携して上西郷川の環境保全の取り組みを継続的に行うことで、適正な維持・管理に努める。	令和8継続	上西郷川に生息する野生生物及び希少野生生物を積極的に保護するための適正な維持・管理の仕組みを構築した。	上西郷川に生息する野生生物及び希少野生生物を積極的に保護するため、適正な維持・管理を実施した。	上西郷川に生息する野生生物及び希少野生生物を積極的に保護するための適正な維持・管理方法の検討ができていない。	A	地域と共働して維持・管理を行っているほか、福岡南小学校児童による河川作りが行われている。福岡南小学校では環境学習の場として活用しており、将来的な担い手の育成にも繋がっている。	A	地域と共働して維持・管理を行っているほか、福岡南小学校児童による河川作りが行われている。福岡南小学校では環境学習の場として活用しており、将来的な担い手の育成にも繋がっている。		
			河川水質の保全・再生	福津市の河川水質は、公共下水道事業の普及などにより、改善傾向がみられます。今後は、定期的な検査を行い、現在の水環境の保全及び水質の向上を目指します。	うみがめ課 下水道課	定期的な河川の水質検査を実施する。また、水洗化率の向上を図る。	令和8継続	定期的な河川の水質検査を実施し、下水道の水洗化率の普及啓発を行った。	定期的な河川の水質検査や下水道の水洗化率の普及啓発を検討した。	定期的な河川の水質検査や下水道の水洗化率の普及啓発ができていない。	A	年4回の水質検査を実施し、異常は検出されず。水洗化率は令和5年度は92.6%達成した。	A	年4回の水質検査を実施し、異常は検出されず。水洗化率は令和4年度は91.5%達成した。		

	行動計画	項目	取組み内容	担当課	具体的施策または方針	目標	評価基準				評価点	評価の理由と改善策	評価点	評価の理由と改善策
							A+	A	B	C		R5		R4
							100%以上	100%	50%	0%				
目標1（生き物や生き物が住んでいる場所を守る）	4	海環境の保全・再生	河川の保全・再生に関する取り組みの推進	河川環境の保全・再生に関する取り組みを推進し、継続的に取り組んでいくために、市民、市民団体、事業者、教育・研究機関による協議を進めます。	うみがめ課	河川環境の保全・再生に関する取り組みを継続的に実施していくために、協議ができるプラットフォームづくりを行っていく。	令和2新規	河川環境の保全・再生に関する取り組みを継続的に取り組んでいくために市民、市民団体、事業者、教育・研究機関による協議の仕組みを構築した。	河川環境の保全・再生に関する取り組みの場を設けたが、市民、市民団体、事業者、教育・研究機関の一部としか協議できていない。	河川環境の保全・再生に関する取り組みについて市民、市民団体、事業者、教育・研究機関と協議の場がもたれていない。	B	理由：他課や研究機関、市民団体など、一部と河川環境の保全・再生に向けた協議をそれぞれ行った。生物多様性セミナーにおいて、市内の河川の環境保全・再生の取組を講師にしてもらった。 改善策：関係団体と密に連携し、定期的に協議ができるような仕組みづくりに取り組む。	B	理由：他課や研究機関、市民団体など、一部と河川環境の保全・再生に向けた協議をそれぞれ行った。 改善策：関係団体と密に連携し、定期的に協議ができるような仕組みづくりに取り組む。
			希少野生生物の保全	福津市の海岸は、アカウミガメが産卵に訪れるなど希少野生生物にとって重要な環境であることから、適正に保全します。	うみがめ課	希少野生生物の生息環境を保全するために市民や市民団体、事業者、教育・研究機関等と共働で海・海岸環境の保全に努める。	令和2継続	希少野生生物の生育・生息環境を維持するために適正な保全について協議し、実施した。	希少野生生物の生育・生息環境を維持するために適正な保全について協議した。	希少野生生物の生育・生息環境を維持するために適正な保全について協議できていない。	A	市民や地域、企業との共働による継続的な海岸清掃活動が定着してきて、自主的な清掃活動も行われている。また、海環境においては、マイクロプラスチック問題等を啓発することで保全へとつなげていけるようにした。	A	市民や地域、企業との共働による継続的な海岸清掃活動が定着してきて、自主的な清掃活動も行われている。また、海環境においては、マイクロプラスチック問題等を啓発することで保全へとつなげていけるようにした。
			漂着物対策の推進	漂着物の除去を継続的にを行い、漂着物対策について調査・研究します。	うみがめ課	不法投棄パトロールやアダプト団体による清掃活動を通して、なるべく頻繁に海岸漂着物の除去を行う。また、他課と連携し計画的な清掃を行う。	令和8継続	漂着物の除去を継続的にを行い、漂着物対策について調査・研究を実施する。	漂着物の除去を行い、漂着物対策について調査・研究を検討する。	漂着物の除去や漂着物対策について調査・研究ができていない。	A	アダプトプログラム制度やボランティア活動を活用し継続的な漂着物の除去を行っている。ボランティアでは回収が難しい大型の漂着物については、市がシルバー人材センターに委託し、回収を行っている。また海岸の状況を職員の目で確認し、市の海岸清掃等に反映した。	A	アダプトプログラム制度やボランティア活動を活用し継続的な漂着物の除去を行っている。また、市民や市民団体に漂着ごみの状況をヒアリングし、市の海岸清掃等に反映した。
			多主体の共働による美化活動の推進	市民団体や学校、事業所など多主体の共働による海岸環境の美化活動を推進します。	うみがめ課	多主体の共働による海岸清掃等の美化活動の取り組みを推進するために、かんきょう新聞や出前講座等を実施し共働による美化活動を推進する。	令和8継続	市民団体や学校、事業所など多主体の共働による海岸美化活動を実施し、継続する仕組みが構築されている。	市民団体や学校、事業所など多主体の共働による海岸環境の美化活動を実施した。	市民団体や学校、事業所など多主体の共働による海岸環境の美化活動を実施した。	A	アダプトプログラム制度やラプアーンスクリーンアップなど啓発イベントの積極的な推進を実施している。	A	アダプトプログラム制度やラプアーンスクリーンアップなど啓発イベントの積極的な推進を実施している。
			藻場の保全・再生	福津市の北西部の海域に分布する藻場は、生物の生息・生育地として重要な環境であるため、藻場の適正な保全・再生を目指す。	農林水産課	水産多面的機能支払交付金事業を活用し、藻場の保全や再生を支援する。	令和8新規	藻場の適切な保全・再生のため現状を把握し、対策を実施した。	藻場の適切な保全・再生のため、現状を把握し、対策について検討した。	藻場の適切な保全・再生のための対策について検討していない。	A	藻を食べるガンガゼ・ムラサキウニを駆除することで、藻場の保全・再生を行った。	A	藻を食べるガンガゼ・ムラサキウニを駆除することで、藻場の保全・再生を行った。
			海環境の保全・再生に関する取り組みの推進	海環境の保全・再生に関する取り組みを推進し、継続的に取り組んでいくために、市民、市民団体、事業者、教育・研究機関による協議を進めます。	うみがめ課	海環境の保全・再生に関する取り組みを継続的に実施していくために、協議ができるプラットフォームづくりを行っていく。	令和2新規	海環境の保全・再生に関する取り組みを継続的に取り組んでいくために市民、市民団体、事業者、教育・研究機関による協議の仕組みを構築した。	海環境の保全・再生に関する取り組みの場を設けたが、市民、市民団体、事業者、教育・研究機関の一部としか協議できていない。	海環境の保全・再生に関する取り組みについて市民、市民団体、事業者、教育・研究機関と協議の場がもたれていない。	B	理由：他課や研究機関、市民団体など、一部と海環境の保全・再生に向けた協議をそれぞれ行った。 改善策：関係団体と密に連携し、定期的に協議ができるような仕組みづくりに取り組む。	B	理由：他課や研究機関、市民団体など、一部と海環境の保全・再生に向けた協議をそれぞれ行った。 改善策：関係団体と密に連携し、定期的に協議ができるような仕組みづくりに取り組む。
	5	干潟環境の保全と再生	希少野生生物の保全	福津市の干潟は、カブトガニの生息地として、またクロツラヘラサギの越冬場所としてなど、希少生物にとって重要な環境であることから、適正に保全します。	うみがめ課	干潟の環境の保全について、市民、市民団体、事業者、教育・研究機関等と連携し干潟の希少野生生物について情報共有を図る。また、関係課とも適正な保全について連携を検討する。		干潟に生息・生育する希少野生生物の営巣・生息・生育環境を維持するために適正な保全について協議し、実施した。	干潟に生息・生育する希少野生生物の営巣・生息・生育環境を維持するために適正な保全について協議した。	干潟に生息・生育する希少野生生物の営巣・生息・生育環境を維持するために適正な保全について協議できていない。	A	市民団体や企業と共働して干潟の漂着ごみ回収や、干潟の希少生物を保全するために看板の設置を行った。参加する市民の意識が高まり、自発的な保全活動が進んでいる。	A	市民団体や企業と共働して干潟の漂着ごみ回収や、干潟の希少生物を保全するために看板の設置を行った。参加する市民の意識が高まり、自発的な保全活動が進んでいる。
			津屋崎干潟の保全	津屋崎干潟の環境の質の向上や積極的な保全を図るための方法を検討します。	うみがめ課	干潟の清掃や出前講座等で環境意識の啓発などを行い、適正な干潟環境の保全が行えるように努める。また、干潟の環境で必要に応じて県と協議を行う。	令和8新規	関係機関と連携しながら、津屋崎干潟の環境の質の向上や積極的な保全を図る取り組みを実施した。	関係機関と連携しながら、津屋崎干潟の環境の質の向上や積極的な保全を図る取り組みについて検討した。	関係機関と連携しながら、津屋崎干潟の環境の質の向上や積極的な保全を図る取り組みについて検討できていない。	B	理由：研究機関等と干潟環境の質の向上について協議を行うことはあるが、具体的な計画をたてて取り組むところには至っていない。 改善策：保全について関係機関と協議を行う。	B	理由：研究機関等と干潟環境の質の向上について協議を行うことはあるが、具体的な計画をたてて取り組むところには至っていない。 改善策：保全について関係機関と協議を行う。
			人の利用のためのしくみづくり	津屋崎干潟では、生態系サービスの享受を脅かす人の利用による環境の悪化への対策として、健全な利用に関するしくみについて検討します。	うみがめ課	生物多様性について正しい理解の周知や津屋崎干潟の自然環境の現状や課題を共有し、持続可能な生態系のサービスについて、シンポジウム等で検討していく。	令和2新規	津屋崎干潟の健全な利用に関する仕組みについて検討し、実施した。	津屋崎干潟の健全な利用に関する仕組みについて検討した。	津屋崎干潟の健全な利用に関する仕組みについて検討していない。	B	理由：環境学習等で、人の利用について周知・啓発を行った。問題提起はできたが、実施するとなると関係各課との協議が必要ため難しい。 改善策：各関係機関との協議や調整を行う。	B	理由：環境学習等で、人の利用について周知・啓発を行った。問題提起はできたが、実施するとなると関係各課との協議が必要ため難しい。 改善策：各関係機関との協議や調整を行う。
			干潟のモニタリング調査	干潟環境の現状や変化を把握するために、必要に応じ、モニタリング調査を実施します。	うみがめ課	生物の個体調査や砂の流入調査を検討する。	令和8新規	干潟環境の現状や変化を把握するために、モニタリング調査を実施した。	干潟環境の現状や変化を把握するために、モニタリング調査について検討した。	干潟環境の現状や変化を把握するために、モニタリング調査について検討されていない。	A	研究機関と定期的に協議し、ドローンを使用した調査の実施状況を聞き取っている。	A	研究機関と定期的に協議し、ドローンを使用した調査の実施状況を聞き取っている。
			干潟環境の保全・再生に関する取り組みの推進	干潟環境の保全・再生に関する取り組みを推進し、継続的に取り組んでいくために、市民、市民団体、事業者、教育・研究機関による協議を進めます。	うみがめ課	干潟環境の保全・再生に関する取り組みを継続的に実施していくために、協議ができるプラットフォームづくりを行っていく。	令和2新規	干潟環境の保全・再生に関する取り組みを継続的に取り組んでいくために市民、市民団体、事業者、教育・研究機関による協議の仕組みを構築した。	干潟環境の保全・再生に関する取り組みの場を設けたが、市民、市民団体、事業者、教育・研究機関の一部としか協議できていない。	干潟環境の保全・再生に関する取り組みについて市民、市民団体、事業者、教育・研究機関と協議の場がもたれていない。	A	環境シンポジウムにて、市民、市民団体、事業者、教育・研究機関と継続して協議を行う仕組みを構築した。	A	環境シンポジウムにて、市民、市民団体、事業者、教育・研究機関と継続して協議を行う仕組みを構築した。
	6	ため池環境の保全	ため池の保全	ため池を適正に保全します。	農林水産課	県営ため池事業を活用し、順次整備する。また、農業集落は農業多面的機能支払交付金を活用し、ため池の草刈りなど維持管理を実施する。	令和8新規	ため池の生態系に関する情報を収集しながら、維持管理及び改修を実施した。	市内のため池の現状を把握し、優先的に整備する内容を整理し、改修や維持管理を適正に実施した。	ため池を適正に保全できていない。	A	ため池の改修を行う際に現状を把握し、県に情報提供して、県が改修工事を行った。 改善策：ため池の生態系に関する情報を収集し、生態系に配慮した維持管理及び改修を行う。	B	理由：ため池の現状を把握し、県に情報提供して、県が改修工事を行った。 改善策：ため池の生態系に関する情報を収集し、生態系に配慮した維持管理及び改修を行う。

	行動計画	項目	取組み内容	担当課	具体的施策または方針	目標	評価基準				評価点	評価の理由と改善策	評価点	評価の理由と改善策
							A+	A	B	C		R5		R4
							100%以上	100%	50%	0%				
	7	保全・再生	ため池の保全・再生に関する取り組みの推進	うみがめ課	生態系に配慮した保全をしていくために、ため池の環境について広く周知し、保全方法や取り組みをなるべく多くの市民や市民団体や教育・研究機関と協議し検討する、	令和2新規		ため池の保全・再生に関する取り組みを継続的に取り組んでいくために市民、市民団体、事業者、教育・研究機関による協議の仕組みを構築した。	ため池の保全・再生に関する取り組みの場を設けたが、市民、市民団体、事業者、教育・研究機関の一部としか協議できていない。	ため池の保全・再生に関する取り組みについて市民、市民団体、事業者、教育・研究機関と協議の場がもたれていない。	B	理由：環境シンポジウムにて研究機関や市民団体とため池環境の保全・再生に向けた協議を行った。 改善策：市内のため池の現状を把握し、他課や関係団体と密に連携しながら、定期的に協議ができるような仕組みづくりに取り組む。	B	理由：環境シンポジウムにて研究機関や市民団体とため池環境の保全・再生に向けた協議を行った。 改善策：市内のため池の現状を把握し、他課や関係団体と密に連携しながら、定期的に協議ができるような仕組みづくりに取り組む。
		松林環境の保全・再生	市民団体との共働による健全な松林の保全・再生	農林水産課	定期的な松くい虫駆除を行う。また、地域郷づくり協議会と連携しながら、松林の保全・再生に取り組む。	令和8継続		松林の荒廃などの問題に対し、市民団体と連携し、地域共働の健全な松林の保全・再生を実施した。	松林の荒廃などの問題に対し、市民団体と連携し、地域共働の健全な松林の保全・再生について検討した。	松林の荒廃などの問題に対し、市民団体と連携し、地域共働の健全な松林の保全・再生への検討ができていない。	A	例年薬剤散布は、空中2回、地上1回実施しており、今後も継続して実施する必要がある。また、各郷づくり協議会に対して松苗の配布を実施している。郷づくりを中心とした保全再生の仕組みに加え、市民が憩える場所や交流の場としての整備もすすめられている。	A	例年薬剤散布は、空中2回、地上1回実施しており、今後も継続して実施する必要がある。また、各郷づくり協議会に対して松苗の配布を実施している。郷づくりを中心とした保全再生の仕組みに加え、市民が憩える場所や交流の場としての整備もすすめられている。
			松林の保全・再生に関する取り組みの推進	うみがめ課	里山環境の保全・再生に関する取り組みを継続的に実施していくために、協議ができるプラットフォームづくりを行っていく。	令和2新規		松林の保全・再生に関する取り組みを継続的に取り組んでいくために市民、市民団体、事業者、教育・研究機関による協議の仕組みを構築した。	松林の保全・再生に関する取り組みの場を設けたが、市民、市民団体、事業者、教育・研究機関の一部としか協議できていない。	松林の保全・再生に関する取り組みについて市民、市民団体、事業者、教育・研究機関と協議の場がもたれていない。	A	環境シンポジウムや環境学習にて、市民、市民団体、事業者、教育・研究機関と継続して協議を行う仕組みを構築した。	A	環境シンポジウムや環境学習にて、市民、市民団体、事業者、教育・研究機関と継続して協議を行う仕組みを構築した。
	8	水田環境の保全・再生	水田の保全	農林水産課	・稲作の栽培を通じて、また減農薬による農業の推進を図る。 ・関係課と営農者との協議をして実施する。	令和8新規		現状の水田環境の保全を図り、生物多様性に配慮した水田環境の保全に努めた。	現状の水田環境の保全を図り、生物多様性に配慮した水田環境の保全に努めた。	現状の水田環境の保全を図り、生物多様性に配慮した水田環境の保全に努めていない。	A	普及所や農協の指導のもと、適正な農業使用や県の認証制度による取り組みの現状を把握した。	A	普及所や農協の指導のもと、適正な農業使用や県の認証制度に取り組みの現状を把握した。
			耕作地の管理・活用	農林水産課	農地中間管理機構を利用し新規参入者の促進や農地の集積化をはかり、耕作放棄地の減少に取り組む。	令和8継続		農地全体の保全を図るため、増加している耕作放棄地の管理及び活用方法について実施した。	農地全体の保全を図るため、増加している耕作放棄地の管理及び活用方法について検討した。	農地全体の保全を図るため、増加している耕作放棄地の管理及び活用方法についてできていない。	A	農地中間管理機構や農用地利用集積計画に基づき、休耕地の管理や活用が行われている。	A	農地中間管理機構や農用地利用集積計画に基づき、休耕地の管理や活用が行われている。
	9	外来生物の生息状況の把握	生き物に関する継続的な調査体制の確立（再掲）	うみがめ課 郷育推進課	市民参画による調査の実施や、市民団体や教育機関との連携による調査体制の確立に努める。	令和8新規		生き物に関するデータの収集を継続的に行うために、市が取り組んでいる自然体験プログラムを活用した調査の実施、市民団体や教育機関との連携による調査体制の確立に努めた。	生き物に関するデータの収集を継続的に行うために、市が取り組んでいる自然体験プログラムを活用した調査の実施、市民団体や教育機関との連携による調査体制の確立に向けて検討した。	生き物に関するデータの収集を継続的に行うために、市が取り組んでいる自然体験プログラムを活用した調査の実施、市民団体や教育機関との連携による調査体制の確立に取り組めていない。	A	関係課や県、市民団体、研機関等から、生き物観察会などで得た生き物に関する情報を収集できる状態である。 また、生物多様性セミナーにおいて市内の団体に講師をお願いしたり、一緒に自然観察会を開催し市民、市民団体が連携して活動できる体制を構築した。	B	理由：関係課や県、市民団体、研究機関等から、生き物観察会などで得た生き物に関する情報を収集できる状態である。 改善策：関係団体と連携し、生き物観察会などの環境学習を活用した調査の体制づくりに取り組む。
	10	外来生物との関わり方に関する普及・啓発	外来生物に関する情報の提供	うみがめ課	国や県からの情報提供をもとに、環境啓発イベント等でのチラシの配布や公共施設でのポスター貼付を実施し、またWebサイトを活用して外来生物に関する情報を発信していく。	令和8継続	外来生物について市民が理解し市への問い合わせ、自主的な駆除等の行動がみられるようになった。	外来生物や外来生物との関わり方に関して、イベントやwebサイトを通じて、外来生物に関する情報の周知を実施した	外来生物や外来生物との関わり方に関して、イベントやwebサイトを通じて、外来生物に関する情報の周知内容について検討した。	外来生物や外来生物との関わり方に関して、イベントやwebサイトを周知ができていない。	A	広報やSNSを活用して外来生物に関する情報を市民に提供した。また、庁舎内にチラシを配架し、周知に努めた。	A	広報やSNSを活用して外来生物に関する情報を市民に提供した。また、庁舎内にチラシを配架し、周知に努めた。
			ペットの適正な飼育の推進	うみがめ課	ペットを野外に放つことによる生態系への影響を防ぐため、ペットの適正な飼育に関する情報の発信を行います。	令和8新規		ペットを野外に放つことによる生態系への影響を防ぐため、ペットの適正な飼育に関する情報発信の仕組みを構築した。	ペットを野外に放つことによる生態系への影響を防ぐため、ペットの適正な飼育に関する情報発信した。	ペットを野外に放つことによる生態系への影響を防ぐため、ペットの適正な飼育に関する情報発信について検討した。	B	理由：環境啓発イベントや国・県から提供されたのポスターの掲示などを通じて市民へ情報発信を行った。 改善策：情報発信の仕組みづくりに取り組む。	B	理由：市ホームページ内の「犬・猫（ペット）の飼い方」のページに飼い主のいない猫の放し飼いをに関する記事を追加して市民へ情報発信を行った。 改善策：発信する情報の精査と情報発信の方法を検討し、仕組みづくりに取り組む。
	11	外来生物の侵入・拡散への対策	生態系に悪影響を及ぼす外来生物への対策	うみがめ課	特定外来生物について把握し、市民へ情報提供していきながら、市民からよせられた情報を把握し、それをもとに研究機関等と協議を行いながら調査・研究を行う。	令和8継続		市内に生息する特定外来生物など地域の生態系に悪影響を及ぼす外来生物に対して、駆除を行うための調査・研究を実施した。	市内に生息する特定外来生物など地域の生態系に悪影響を及ぼす外来生物に対して、駆除を行うための調査・研究を検討した。	市内に生息する特定外来生物など地域の生態系に悪影響を及ぼす外来生物に対して、駆除を行うための調査・研究を行っていない。	A	国・県からの生態的な情報を継続的に蓄積している。一部の特定外来種に対しては、発見場所、時期、数などを収集する仕組みを構築済みであり、現地調査もしている。駆除を行うためには、市役所内部の調整が必要である。	A	国・県からの生態的な情報を継続的に蓄積している。一部の特定外来種に対しては、発見場所、時期、数などを収集する仕組みを構築済みであり、現地調査も行うためには、市役所内部の調整が必要である。
目標2	12	自然と親しむ場所の創出	生物多様性に配慮した公園の管理	建設課	既存公園における管理において、生物多様性に配慮した公園管理方法を検討し、自然を楽しむための場所の確保や活用に関する検討を行う。	令和8新規		既存公園において、改修や植栽による緑化など生物多様性に配慮した公園の管理方法についての調査・研究を行った。また、生物多様性や生態系サービスに関する情報の周知を行った。	既存公園において、改修や植栽による緑化など生物多様性に配慮した公園の管理方法についての調査・研究や、また、生物多様性や生態系サービスに関する情報の周知を検討した。	既存公園において、改修や植栽による緑化など生物多様性に配慮した公園の管理方法について、調査・研究や、また、生物多様性や生態系サービスに関する情報の周知ができていない。	A	生物多様性に配慮した公園の管理方法について、市民団体等と協議を行った。 公園内にそこに生息する生き物の情報の看板を設置し、市民への周知を行った。	B	理由：生物多様性に配慮した公園の管理方法について、市民団体等と協議を行った。 改善策：公園の生物多様性や、生態系サービスに関する情報の周知に取り組む。
			グリーンツーリズム、エコツーリズムの検討	観光振興課	福津市の豊かな自然や歴史、文化施設等を活用した体験プログラムの検討を行う。	令和8継続		福津市の自然・文化・人々との交流を楽しめるグリーンツーリズム・エコツーリズムを考慮した環境づくりが実施された。	福津市の自然・文化・人々との交流を楽しめるグリーンツーリズム・エコツーリズムを検討した。	福津市の自然・文化・人々との交流を楽しめるグリーンツーリズム・エコツーリズムについて検討されていない。	A	「福津暮らしの旅」において、豊かな自然と触れ合う機会を提供する取り組みを実施している。	A	「福津暮らしの旅」において、豊かな自然と触れ合う機会を提供する取り組みを実施している。
	13	自然と親しむ機会の創出	市民団体との連携による自然体験プログラムの推進	郷育推進課	市内で自然環境を活用している環境学習プログラムや環境保全活動を広報紙や市のホームページで周知していき、また、自然体験の機会を増やすために、市民団体と連携して自然体験等の機会を増やしていく。	令和8継続		市内の豊かな自然環境を活用した郷育カレッジなどの環境学習プログラムや環境保全活動を推進し、市民団体などとの連携による自然体験の機会を増やした。	市内の豊かな自然環境を活用した郷育カレッジなどの環境学習プログラムや環境保全活動を推進し、市民団体などとの連携による自然体験の機会を増やすことを検討した。	市内の豊かな自然環境を活用した郷育カレッジなどの環境学習プログラムや環境保全活動を推進できていない。	A	郷育カレッジで、市民団体に講師になってもらうなどして、自然体験が継続的に実施されている。広報誌・SNS等の様々なツールを活用し市民の自然体験の機会を増やすよう情報の発信を行った。	A	郷育カレッジや福津暮らしの旅などで、市民団体に講師になってもらうなどして、自然体験が継続的に実施されている。広報誌・SNS等の様々なツールを活用し市民の自然体験の機会を増やすよう情報の発信を行った。

	行動計画	項目	取組み内容	担当課	具体的施策または方針	目標	評価基準				評価点	評価の理由と改善策	評価点	評価の理由と改善策	
							A+	A	B	C		R5		R4	
							100%以上	100%	50%	0%					
（生物多様性の恵みを受け取り、活用する）	13	自然と親しむ機会の創出	福津市まちづくり講座出前編などの取り組みを活用し、自然体験や環境学習を行う際の講師の手配など、自然と親しむ体験の実施に対し、支援を行います。	郷育推進課	福津市のまちづくり出前講座編に自然と親しむ講座を設けたり、環境学習や自然観察会などを講師の紹介を行うなど、市が支援を行っていく。	令和8継続		市内で開催される自然体験や環境学習に対して実施の支援を行った。	市内で開催される自然体験や環境学習に対して実施の支援を検討した。	市内で開催される自然体験や環境学習に対して実施の支援を検討していない。	A	まちづくり講座出前編や郷育カレッジ講座などを継続的に実施することで、支援を行った。	A	まちづくり講座出前編や郷育カレッジ講座などを継続的に実施することで、支援を行った。	36
	14	地域資源の活用	生物多様性に配慮した商品の推進	観光振興課	生態系の攪乱を脅やかさないことに配慮した農産物や地域の資源を活用した製品などを紹介、PRし、その利用を推進する。	令和8新規		生物多様性に配慮して生産された農産物や地域の資源を活用した製品などを紹介、PRし、その利用を促進した。	生物多様性に配慮して生産された農産物や地域の資源を活用した製品などを紹介、PRし、その利用を促進する仕組みを検討した。	生物多様性に配慮して生産された農産物や地域の資源を活用した製品などを紹介、PRし、その利用を促進する仕組みを検討していない。	A	福津市の生態系サービスを市民が意識して享受できるようにするために、観光ガイドマップなどのさまざまな媒体の活用、自然体験の機会を設けることを行った。	A	福津市の生態系サービスを市民が意識して享受できるようにするために、観光ガイドマップなどのさまざまな媒体の活用、自然体験の機会を設けることを行った。	37
			地域の資源を活用した持続的な利用に関する調査	うみがめ課	バイオマスエネルギーについて理解し、近隣で取り組んでいる事例を情報収集する。そのうえで、研究機関に助言を仰ぎ、前向きに生ごみを活用したバイオマスエネルギーの活用について検討する。	令和8新規		生ごみなどを活用したバイオマスエネルギーなどの地域資源を活用した持続的な利用の手法について調査・研究を行った。	生ごみなどを活用したバイオマスエネルギーなどの地域資源を活用した持続的な利用の手法について調査・研究を検討した。	生ごみなどを活用したバイオマスエネルギーなどの地域資源を活用した持続的な利用の手法について調査・研究が行えていない。	A	実際に段ボールコンポストを市役所内に設置し、室内で実施可能性を調査した。実験の結果、コナダニが大量発生した。調査の結果、屋内での設置は難しいことが判明した。今後、ペランダ等でできるミミズコンポスト等を調査研究する必要がある。	A	段ボールコンポストを利用して生ごみの持続的な利用の調査研究を行った。	38
	15	環境アイコンの選定と活用	環境アイコンの選定と周知	うみがめ課	地域の生態系サービスの象徴となる生物を市の環境アイコンとして選定し、周知に努め、生物多様性への関心の向上を図ります。	令和2新規		生態系サービスの象徴となる生物を市の環境アイコンとして選定し、周知に努めた。	生態系サービスの象徴となる生物を市の環境アイコンとして選定した。	地域生態系サービスの象徴となる生物を市の環境アイコンとして選定することの検討ができていない。	A	昨年同様、ウミガメを環境の象徴として環境学習などで活用し、生物多様性への関心の向上を図ることができた。また、今年度はうみがめが産卵したことから、環境新聞のテーマもうみがめにし周知に努めた。	A	昨年同様、ウミガメを環境の象徴として環境学習などで活用し、生物多様性への関心の向上を図ることができた。	39
	15	環境アイコンの選定と活用	環境アイコンを活用した生物多様性保全のしくみの検討	うみがめ課	地域の生物多様性保全のための取り組みの支援を目指し、環境アイコンを活用したしくみについて検討します。	令和2新規		地域の生物多様性保全のための取り組みの支援を目指し、環境アイコンを活用したしくみを構築した。	地域の生物多様性保全のための取り組みの支援を目指し、環境アイコンを活用したしくみについて検討を行った。	地域の生物多様性保全のための取り組みの支援を目指し、環境アイコンを活用したしくみについて検討をしていない。	A	環境イベント等にて、ウミガメやクロツラヘラサギなど希少生物種を環境アイコン的に活用した。また、アイコンを活用した仕組みとして、環境学習のメニューにウミガメの講座を作った。	A	環境イベント等にて、ウミガメやクロツラヘラサギなど希少生物種を環境アイコン的に活用した。また、アイコンを活用した仕組みとして、環境学習のメニューにウミガメの講座を作った。	40
目標3（生物多様性を正しく理解する）	16	生物多様性に関する情報の収集及び把握	市内の生態系サービスに関する情報の収集	農林水産課	漁獲量の変化や農作物の収穫量の変化など生態系サービスによる生活や経済への影響・効果などの情報を収集し、把握します。	令和8新規		漁獲量の変化や農作物の収穫量の変化など生態系サービスによる生活や経済への影響・効果などの情報を収集、把握した。	漁獲量の変化や農作物の収穫量の変化など生態系サービスの変化について情報を収集、把握方法を検討した。	漁獲量の変化や農作物の収穫量の変化などの情報収集ができていない。	A	漁獲量の推移を経年でみていくことができている。	A	漁獲量の推移を経年でみていくことができている。	41
			生物多様性を理解することができる場所の情報の整理	うみがめ課	市内において、津屋崎漁港や海岸松林の遊歩道など生物多様性や生態系サービスを感じることができる場所などの情報を整理します。	令和8継続		市内で生物多様性や生態系サービスを感じることができる場所について情報を整理した。	市内で生物多様性や生態系サービスを感じることができる場所について情報収集を行った。	市内で生物多様性や生態系サービスを感じることができる場所について検討ができていない。	A	市のホームページや観光協会のマップ等にて生態系サービスを体験できる場所を情報提供している。	A	市のホームページや観光協会のマップ等にて生態系サービスを体験できる場所を情報提供している。	42
	17	生物多様性に関するイベントの開催	生物多様性を正しく理解するためのイベントの開催	うみがめ課	市内の生物の分布の状況や生態系サービスなど、生物多様性に関する情報を発信し、正しい理解を広げるためのイベントの開催、プログラムを実施します。	令和8新規		市内の生物多様性に関する情報を市民に発信し、正しい理解を広げるためのイベント・プログラムを実施した。	市内の生物多様性に関する情報を市民に発信し、正しい理解を広げるためのイベント・プログラムを検討した。	市内の生物多様性に関する情報を市民に発信し、正しい理解を広げるためのイベント・プログラムを検討できていない。	A	環境学習やまちづくり講座出前編を市民に提案した。また、環境フォーラムや環境シンポジウム等を実施した。	A	環境学習やまちづくり講座出前編を市民に提案した。また、環境フォーラムや環境シンポジウム等を実施した。	43
	18	生物多様性を理解するための情報の発信	We b サイトやSNSを活用した情報提供の促進	うみがめ課	市内の生物多様性に関する情報やイベントの開催などを幅広く周知するため、市のホームページなどのwebサイトやSNSを活用した情報発信の手法について検討します。	令和8継続		市のホームページやSNSを活用して、市内の生物多様性に関する情報やイベントについて情報発信を行った。	市のホームページやSNSを活用して、市内の生物多様性に関する情報やイベントについて情報発信の仕組みを検討した。	市のホームページやSNSを活用して、市内の生物多様性に関する情報やイベントについて情報発信の仕組みを検討できていない。	A	外来生物や環境保全活動、環境イベントなど、生物多様性に関して、市のホームページやSNSなどを活用し情報発信を行っている。	A	外来生物や環境保全活動、環境イベントなど、生物多様性に関して、市のホームページやSNSなどを活用し情報発信を行っている。	44
			パンフレットなどの紙媒体による情報発信の検討	うみがめ課	かんきょう新聞などの福津市の生き物や生物多様性に関するパンフレットを作成し、イベントでの配布や掲示板での掲載など、情報の周知に努めます。また、生物多様性国家戦略のMY行動宣言※など国や県の取り組みを活用します。	令和8継続		福津市の生き物や生物多様性に関するパンフレットを作成し、配布や掲示を行い、情報の周知を実施する。	福津市の生き物や生物多様性に関する周知を行うためにパンフレットの作成を検討し、パンフレットの素案を作成する。	福津市の生き物や生物多様性に関する情報の周知ができていない。	A	令和3年度に作成した自然環境に関するパンフレットを環境学習で活用するなど多くの人への周知に努めた。このパンフレットは令和6年度から理科の教科書でQRコードから確認になるが掲載されることになった。	A	令和3年度に作成した自然環境に関するパンフレットを環境学習で活用するなど多くの人への周知に努めた。	45
	19	環境教育に対する支援	市の環境を活用した環境学習の推進	うみがめ課	市内の豊かな自然環境を活用した環境教育の実施を推進します。	令和8継続		市内の自然環境を活用した環境教育を推進した。	市内の自然環境を活用した環境教育を実施した。	市内の自然環境を活用した環境教育に取り組めていない。	A	市内小中学校に市内の自然環境に関する学習講座を提案し、9回実施した。海や松林、干潟、ウミガメなど市内の自然環境を活用した環境教育の推進を図った。	A	市内小中学校に市内の自然環境に関する学習講座を提案し、9回実施した。海や松林、干潟、ウミガメなど市内の自然環境を活用した環境教育の推進を図った。	46
			市民団体、教育機関との連携による環境学習の推進	うみがめ課	各地域の郷づくり推進協議会などの市民団体、教育機関との共働による環境保全活動や環境教育の実施を支援します。	令和8継続		各地域の郷づくり推進協議会などの市民団体、教育機関との共働による環境保全活動や環境教育の実施を支援し、継続的な支援の仕組みづくりを行った。	各地域の郷づくり推進協議会などの市民団体、教育機関との共働による環境保全活動や環境教育の実施の支援について内容を検討した。	各地域の郷づくり推進協議会などの市民団体、教育機関との共働による環境保全活動や環境教育の実施を支援ができていない。	A	郷づくり推進協議会や市民団体、事業者等の取り組みを把握して取り組めるように適宜教育機関へ情報提供した。	A	郷づくり推進協議会や市民団体、事業者等の取り組みを把握して取り組めるように適宜教育機関へ情報提供した。	47

行動計画			項目	取組み内容	担当課	具体的施策または方針	目標	評価基準				評価点	評価の理由と改善策		評価の理由と改善策				
								A+		A			B		C		R5	評価点	R4
								100%以上		100%			50%		0%				
			自然と親しむ体験の支援（再掲）	福津市まちづくり講座出前編などの取り組みを活用し、自然体験や環境学習を行う際の講師の手配など、自然と親しむ体験の実施に対し、支援を行います。	郷育推進課	福津市のまちづくり出前講座編に自然と親しむ講座を設けたり、環境学習や自然観察会などを講師の紹介を行うなど、市が支援を行っていく。	令和8継続		市内で開催される自然体験や環境学習に対して実施の支援を行った。	市内で開催される自然体験や環境学習に対して実施の支援を検討した。	市内で開催される自然体験や環境学習に対して実施の支援を検討していない。	A	まちづくり講座出前編や郷育カレッジ講座などを継続的に実施することで、支援へつなげた。	A	まちづくり講座出前編や郷育カレッジ講座などを継続的に実施することで、支援へつなげた。				
	20	環境教育の人材の育成	環境教育を行う人材の育成	福津市まちづくり講座出前編や郷育カレッジの講座でのプログラムを活用し、環境教育を行う人材の育成を行います	郷育推進課	郷育カレッジ講座などで環境教育や環境保全活動などの指導者（理解者・支援者）の育成に取り組む。	令和8継続		福津市まちづくり講座出前編や郷育カレッジの講座を活用して、人材を育成する仕組みを構築した。	福津市まちづくり講座出前編や郷育カレッジの講座を活用して、人材を育成する仕組みを検討した。	福津市まちづくり講座出前編や郷育カレッジの講座を活用して、人材を育成する仕組みを検討していない。	A	福津市まちづくり講座出前編や郷育カレッジの講座の継続的な実施を行っており、知識を得る場を確保することで行動へつなげていく思いを持たせることができ、人材育成へつなげる仕組みができている。	A	福津市まちづくり講座出前編や郷育カレッジの講座の継続的な実施を行っており、知識を得る場を確保することで行動へつなげていく思いを持たせることができ、人材育成へつなげる仕組みができている。				
目標4（みんなで生物多様性を守るために取り組む）	21	地域に関する情報提供	地域の取り組みに関する情報収集	市内の生物多様性を守るための取り組みに関する情報を収集するために、市民団体や事業所と連携した情報収集のしくみについて検討します。	うみがめ課	地域での生物多様性の保全活動を実施している市民団体や事業所から、年1回情報収集する機会を設け、データを整理する。	令和2新規		市内の生物多様性を守るための取り組みに関する情報を収集するために、市民団体や事業所と連携した情報収集の仕組みの構築を図った。	市内の生物多様性を守るための取り組みに関する情報を収集するために、市民団体や事業所と協議の場を設けたが仕組みづくりまではできていない。	市内の生物多様性を守るための取り組みに関する情報を収集するために、市民団体や事業所と連携した情報収集の取り組みができていない。	A	保健所と一緒にビオトープの観察会などを行い市内の環境団体にも参加してもらっている。継続的に一緒に活動することで情報収集の機会を作っている。	B	理由：市民団体や研究機関等と、活動情報を共有する仕組みについて協議を行った。 改善策：関係団体などと連携し、情報収集の仕組みづくりに取り組む。				
			We b サイトやSNSを活用した情報提供の促進（再掲）	市内の生物多様性に関する情報やイベントの開催などを幅広く周知するため、市のホームページなどのwebサイトやSNSを活用した情報発信の手法について検討します。	うみがめ課	生物多様性に関する情報提供等にW e b サイトやS N Sを活用した情報提供の手法を検討し実施する。	令和8継続		市のホームページやSNSを活用して、市内の生物多様性に関する情報やイベントについて情報発信を行った。	市のホームページやSNSを活用して、市内の生物多様性に関する情報やイベントについて情報発信の仕組みを検討した。	市のホームページやSNSを活用して、市内の生物多様性に関する情報やイベントについて情報発信の仕組みを検討できていない。	A	外来生物や環境保全活動、環境イベントなど、生物多様性に関して、市のホームページやSNSなどを活用し情報発信を行っている。	A	外来生物や環境保全活動、環境イベントなど、生物多様性に関して、市のホームページやSNSなどを活用し情報発信を行っている。				
	22	地域の取り組みの創出	地域の取り組みの検討	地域の取り組みを支援する場所として、各郷づくり地域の拠点の活用を検討します。また、この拠点を活用した取り組みの情報発信について検討します。	うみがめ課	地域の環境に対する取り組みの拠点として、各郷づくり推進協議会やその他の拠点となりうる場所を検討し、地域の取り組みの状況を市と共有し地域の保全活動等の情報の発信をしていく。	令和2継続		各郷づくり地域の拠点を地域の取り組みを支援する場所として活用し、取り組みを情報発信する仕組みを検討した。	各郷づくり地域の拠点を地域の取り組みを支援する場所として活用した。	地域の取り組みを支援する場所として、各郷づくり地域の拠点の活用を検討ができていない。	B	理由：松林保全の地域の取り組みの支援を、郷づくり交流センターを活用して行なった。 改善策：各郷づくりの拠点を活用した情報発信をする仕組みづくりに取り組む。	B	理由：松林保全の地域の取り組みの支援を、郷づくり交流センターを活用して行なった。 改善策：各郷づくりの拠点を活用した情報発信をする仕組みづくりに取り組む。				
			各郷づくり推進協議会との連携	各郷づくり推進協議会と連携し、市内の取り組みのネットワーク化を図ります。	うみがめ課	地区ごとの環境保全について整理し、郷づくりと共有していく。	令和8新規		各郷づくり推進協議会と連携し、市内の取り組みのネットワーク化を実施した。	各郷づくり推進協議会と連携する内容について、協議を行った。	各郷づくり推進協議会と連携ができていない。	A	各郷づくりの環境保全の取り組みを整理して把握している。環境フォーラムや環境シンポジウムにて郷づくり推進協議会に発信をしてもらい、市民や市民団体、教育・研究機関との取り組みのネットワーク化を図った。	A	各郷づくりの環境保全の取り組みを整理して把握している。環境フォーラムや環境シンポジウムにて郷づくり推進協議会に発信をしてもらい、市民や市民団体、教育・研究機関との取り組みのネットワーク化を図った。				
	23	地域の取り組みの支援	生物多様性に関する取り組みの支援	環境保全活動などの取り組みへの支援として国や県などの補助制度について調査し、取り組みを行う主体への情報提供を行い、継続的な取り組みにつなげるための支援を行います	うみがめ課	国や県の補助制度について情報収集し、環境保全活動などへの支援として情報提供を行い支援する。	令和8新規	環境団体が独自で補助制度の情報収集を行い、それらを活用して活動が活発に行われるようになった。	情報提供をしたことで、環境団体がそれらの制度を使った活動をするようになった。	環境保全活動などの取り組みへの支援として国や県などの補助制度について調査を実施し、情報収集した内容を、該当する環境団体等へ必要に応じて情報提供した。	環境保全活動などの取り組みへの支援として国や県などの補助制度について調査をしていない。	A	情報提供を行ったことで、自主的に補助制度を活用する団体も出てきた。	A	情報提供を行ったことで、自主的に補助制度を活用する団体も出てきた。				
			環境教育を行う人材の育成（再掲）	福津市まちづくり講座出前編や郷育カレッジの講座でのプログラムを活用し、環境教育を行う人材の育成を行います	郷育推進課	郷育カレッジ講座などで環境教育や環境保全活動などの指導者（理解者・支援者）の育成に取り組む。	令和8継続		福津市まちづくり講座出前編や郷育カレッジの講座を活用して、人材を育成する仕組みを構築した。	福津市まちづくり講座出前編や郷育カレッジの講座を活用して、人材を育成する仕組みを検討した。	福津市まちづくり講座出前編や郷育カレッジの講座を活用して、人材を育成する仕組みを検討していない。	A	福津市まちづくり講座出前編や郷育カレッジの講座の継続的な実施を行っており、知識を得る場を確保することで行動へつなげていく思いを持たせることができ、人材育成へつなげる仕組みができている。	A	福津市まちづくり講座出前編や郷育カレッジの講座の継続的な実施を行っており、知識を得る場を確保することで行動へつなげていく思いを持たせることができ、人材育成へつなげる仕組みができている。				
	24	地域の取り組みをつなぐ機会の創出	シンポジウムの開催	市民団体が行っている生物多様性に関する取り組みや地域の状況について話し合うための場として、市民団体や学校など多くの主体との共働によるシンポジウムを開催します。	うみがめ課	年1回の開催を目標に、毎年の振り返りを行い、内容、対象、場所を選定し、生物多様性に関する取り組みや地域の状況についてワークショップを実施しながら、シンポジウムを実施していく。	令和8継続	シンポジウムを継続して開催していくことで、参加者が増え、積極的な意見が出されるようになる。	市民や市民団体や教育、研究機関と共働でシンポジウムを開催した。	自然環境の現状を把握したうえで、シンポジウムの開催に向けた、内容、対象、場所の選定を検討した。	市民団体や学校など多くの主体との共働によるシンポジウムを開催の検討ができていない。	A	市民団体や教育・研究機関等と共働にて、定期的な開催を実施している。	A	市民団体や教育・研究機関等と共働にて、定期的な開催を実施している。				
			ふくつ環境トラストの構築（再掲）	市民、市民団体、事業者、教育・研究機関、市の共働で福津市の豊かな環境を守り、受け継いでいくためのしくみとして、ふくつ環境トラストを構築します。	うみがめ課	市内の市民、市民団体、教育・研究機関で行われている環境保全活動を把握し、定期的な意見交換の場を設け、各取り組みの情報共有を図り、自然環境の現状と課題を明確にし、保全の取り組みの共有を図っていく。また、必要に応じて事業者とも会議を行っていく。	令和2新規	市民、市民団体、事業者、教育・研究機関、市の共働の場としてふくつ環境トラストを構築し、継続する仕組みができた。	市民、市民団体、事業者、教育・研究機関、市の共働の場としてふくつ環境トラストを構築した。	市民、市民団体、事業者、教育・研究機関、市の共働の場としてふくつ環境トラストの構築の検討を行った。	市民、市民団体、事業者、教育・研究機関、市の共働の場としてふくつ環境トラストを構築に向けた検討ができていない。	B	理由：環境トラストを市民にってもらうために、環境フォーラムとシンポジウムと同時開催し市民の方に環境トラストを知ってもらう機会にした。 改善策：環境トラストを開催したが継続的な仕組みの構築に取り組む必要がある。	B	理由：年1回程度、関係団体などと会議を行った。 改善策：今後、ふくつ環境トラストの構築に取り組む。				